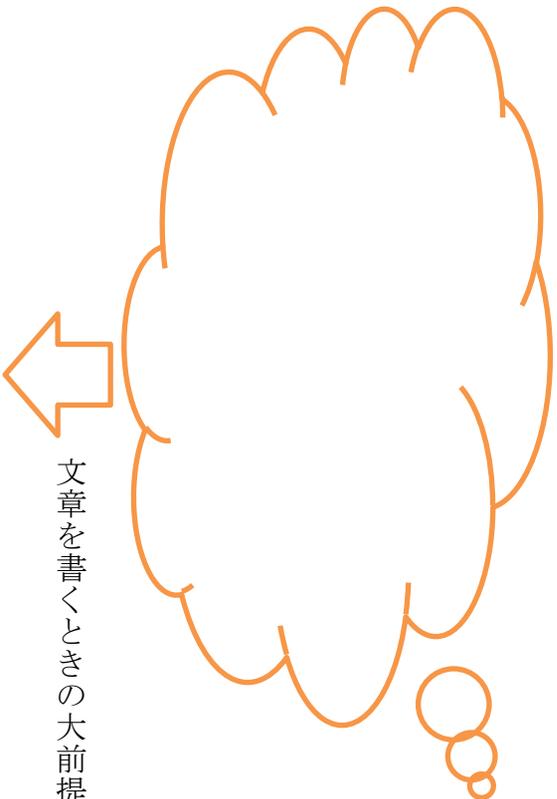


〜わかりやすい文章を書くために〜

0 何のために書くのか

私たちはどのような目的で文章を書くのか考えてみよう。



文章を書くときの大前提

() () のことを意識する

ポイント

どんなに素晴らしい内容が書かれていても、読みづらい文字や誤った表現では、読み手に言いたいことを伝えることはできない。正しい表現・表記を身につけ、読みやすい文章を書けるようになろう。読み手を意識することは、文章を書くための第一歩。

1 漢字を正しく書こう

AとBのどちらがわかりやすいでしょうか。

A おおきなくりのきのしたであなたとわたしなかよくあそびましょう

B 大きな栗の木の下であなたと私仲良く遊びましょう

 次の——のカタカナを漢字に直してみよう。

- ① 少年の正直さにカ|ン|シ|ン|した。 「 」
- ② 環境問題にカ|ン|シ|ン|を持つ。 「 」
- ③ 今年の夏はア|ツ|い。 「 」
- ④ ア|ツ|いお茶を飲む。 「 」

ポイント

漢字を用いることによって、内容が伝わりやすくなる。正しく漢字を書くために、漢字の学習にしっかり取り組みよう。

2 読点の位置を考えよう

次の各文は二通りの意味に解釈できる。二通りそれぞれの意味が伝わるように、読点を書き加えた文にしよう。

① 猫は必死で逃げるねずみを追いかけた。(必死なのは?)



② 小さな花の絵を描く。(小さいのは?)



③ 僕は太郎と花子を訪問した。(訪問したのほ?)



④ 私は寝不足のため不機嫌そうな態度の太郎とけんかをした。(寝不足なのほ?)



ポイント

読点は、意味を正しく伝えるための重要な符号。
打つ位置によって意味が変わるので注意しよう。

3 一文の長さを考えよう

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいて、おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに行き、おばあさんが川でせんたくをしていると、ドンブラコ、ドンブラコと、大きな桃が流れてきて、おばあさんは大きな桃をひろいあげて、家に持ち帰り、おじいさんとおばあさんが桃を食べようと桃を切ってみると、なんと中から元気の良い男の赤ちゃんが飛び出してきました。

ポイント

一文が長くなると、読み手は「何を伝えたいのか」「何について書いている文章なのか」「が伝わらない」と感じる。適当な長さの複数の文に分けてみよう。

練習問題

問一 漢字と仮名遣い、送り仮名の誤りを正しく書き直そう。

後世の人々が指適するとうり、経済政策のつまづきが、国家存亡の危機を招く
始まりだと言えよう。



問二 適切な位置に句読点を打とう。

経済協力開発機構が二〇一二年に六十五カ国・地域で実施した「生徒の学習到達
度調査」(PISA)で日本の高校一年生は読解力の順位が四位数学的な活用力の
順位が七位であった

応用問題 表現上の誤りがある各文を、正しい文に書き直そう。

①私の意見は、利用者の立場を重視し、現在の制度を見直したいと思います。

②私たちは、ご飯なしで天ぷらだけを食べたり、刺身だけを食べることがある。

③朝食をちゃんと食べられるように、朝早起きしなきゃだめだなあって思った。

④ごみがすごく増加している。なので、リサイクルを行う必要がある。

⑤その音楽は私に深い感銘を与えた。しばらくすると自然に涙が出てきました。